

一財)日陶連 技能評価試験  
陶磁器工業製品製造 学科試験問題  
機械ろくろ成形作業 専門級

受検番号

1. 試験時間 … 1時間
2. 問題数 … 30題
3. 注意

(1) 試験問題には、受検番号を、答案用紙には 受検番号と名前を書きなさい。

(2) 答えは「正しい」、または「誤り」のどちらかです。

答え方は、答案用紙に解答例のように書きなさい。

① 答えが「正しい」と思う場合は、『○』を書きなさい。

② 答えが「誤り」と思う場合は、『×』を書きなさい。

(3) 分からないことがあったら、手を挙げて係りの人に聞きなさい。

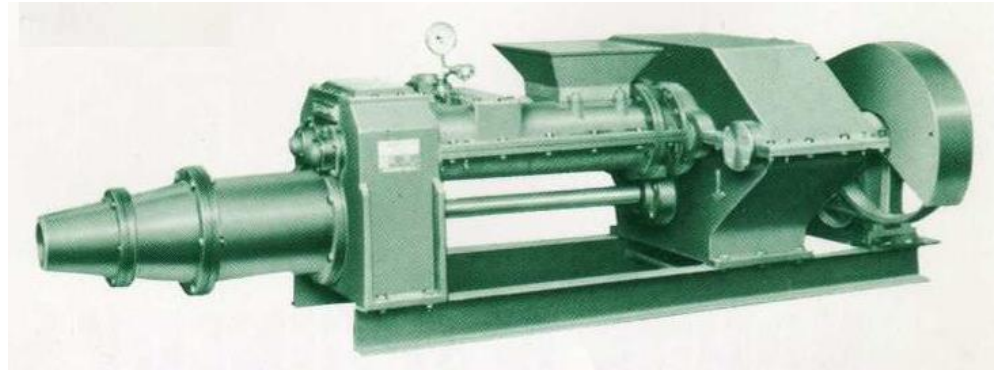
(4) 答案用紙の ※ のところには、何も書いてはいけません。

【解答例】

問題の番号	答え
1	○
2	×
3	○

もんだい  
【問題】

1. <sup>しゃしん</sup>写真は、ボールミルである。



2. <sup>しゃしん</sup>写真は、ろくろ<sup>せいけい</sup>成形である。



3. <sup>しゃしん</sup>写真は、<sup>ひた</sup>浸しがけを<sup>ようす</sup>している様子である。



4. 写真<sup>しゃしん</sup>は、カケ<sup>かり</sup>の不良<sup>ふりょう</sup>である。



5. 土器<sup>どき</sup>は、吸水<sup>きゅうすいせい</sup>性<sup>せい</sup>がある。
6. 土器<sup>どき</sup>、陶器<sup>とうき</sup>、磁器<sup>じき</sup>では、土器<sup>どき</sup>が一番<sup>いちばん</sup>焼成<sup>しょうせい</sup>温度<sup>おんど</sup>が高い<sup>たか</sup>。
7. 吸水<sup>きゅうすいせい</sup>性<sup>せい</sup>とは、水<sup>みず</sup>を吸<sup>す</sup>い込むことをいう。
8. 土器<sup>どき</sup>は、紀元前<sup>きげんぜん</sup>5000年<sup>ねん</sup>頃<sup>ごろ</sup>からあった。
9. 陶磁器<sup>とうじき</sup>の原料<sup>げんりょう</sup>には、粘土<sup>ねんど</sup>、長石<sup>ちょうせき</sup>、珪石<sup>けいせき</sup>、が主<sup>おも</sup>に使<sup>つか</sup>われる。
10. 可塑性<sup>かそせい</sup>とは、粘土<sup>ねんど</sup>の粒子<sup>りゅうし</sup>同士<sup>どうし</sup>が、スライドするから起<sup>お</sup>こる。
11. 陶磁器<sup>とうじき</sup>の焼成<sup>しょうせい</sup>には、天然<sup>てんねん</sup>ガス<sup>が</sup>やLPG<sup>が</sup>が使<sup>つか</sup>われる。
12. 本焼<sup>ほんや</sup>きの温度<sup>おんど</sup>は、1200～1400℃である。
13. 使<sup>つか</sup>うものと使<sup>つか</sup>わないものを分<sup>わ</sup>け、使<sup>つか</sup>わないものをすてることを整理<sup>せいり</sup>という。
14. 指<sup>し</sup>示<sup>じ</sup>された作<sup>さ</sup>業<sup>ぎょう</sup>の結果<sup>けっか</sup>を上<sup>じょう</sup>司<sup>し</sup>に伝<sup>つた</sup>えることを、連絡<sup>れんらく</sup>という。
15. 乾<sup>かわ</sup>いた原料<sup>げんりょう</sup>の粉<sup>こな</sup>や、陶磁器<sup>とうじき</sup>の削<sup>けず</sup>りくずを長<sup>なが</sup>い間<sup>あいだ</sup>吸<sup>つづ</sup>い続<sup>つづ</sup>けると「じん肺<sup>ばい</sup>」になることがある。

16. フィルタープレスされた坏土は均一であり、土練機で練る必要はない。
17. 石こう型は、形をつくることのほか、成形された坏土の中の水分を吸い取る  
はたらきもしている。
18. 成形した品物は、乾燥させた後、ふちを濡れたスポンジで溶かしながら形をととのえる。
19. ローラーマシンでは、金属ローラーを加熱し、坏土がローラーにくっつかないようにしている。
20. シッタとローラーの回転数に差をつけることで、坏土へ加わる力が増し、表面が  
なめらかになる。
21. ローラーマシンのローラーは回転しながら、上下に動いている。
22. 自動成形ラインとは、坏土をのせるところから成形、乾燥、ふち仕上げまでの工程が  
機械でつながって、人がいなくても生産できる設備である。
23. 自動成形ラインの乾燥では、主に熱風を利用し、効率よく行われている。
24. 自動成形ラインは、使う石こう型の数は少ないが、ただしく動かせるようになるまでに  
時間がかかる。
25. ローラーマシンは、水分が少ない坏土を使って成形するため、乾燥するときに、  
ひずみやすい。
26. 大型自動ろくろ成形機では、型へかかる力が大きいので、強度が高い、ケース用の  
石こうを使うとよい。

27. ろくろ成形で、皿のふちを成形するとき、ローラー(こて)と型との間を小さくすると、  
ふちの歪みがでにくくなる。

28. 全自動ろくろ成形機では、型の乾燥が急激なので、使用する石こうの耐熱性をあげる  
ため樹脂をいれることもある。

29. 乾燥で切れが発生するときは、室内の温度を上げた方がよい。

30. 縁切り刃物は、ずっと交換しなくてよい。